

原口愛先生 : J Clin Endocrinol Metab (2010)95:e-pub

“2型糖尿病は、クッシング病予備軍か？”

Elevated Fasting Plasma Cortisol Is Associated with Ischemic Heart Disease and Its Risk Factors in People with Type 2 Diabetes: The Edinburgh Type 2 Diabetes Study (ET2DS)

【背景】視床下部—下垂体—副腎皮質系(HPA)の活性上昇は Metabolic 症候群の病態形成に関与するという報告や、2型DM患者ではHPAの過剰反応ありといった報告が相次いでおり、今回 TE2Dstudyにて、その検証が行われました。

【方法】919名の2型糖尿病患者を空腹時の血漿コルチコイド値によって、正常群(21.7未満)、軽度上昇群(21.7-29)、上昇群(29以上)に分類し、糖尿病関連、脂質、血圧の評価、および虚血性心疾患のリスクについて検討された。

【結果】2型糖尿病患者では、血漿コルチコイド値の正常群(21.7未満)は、249/919であり、軽度上昇群371名、上昇群300名と、正常域より上昇している患者が7割以上も存在していた。血漿コルチコイド値の増加は、空腹時血糖値上昇、総コレステロール値上昇、BMIと関連しており、年齢、性、BMIを補正した多変量解析においても、空腹時血糖値、総コレステロール値上昇のリスクとなると考えられた。また、虚血性心疾患のリスクは、血漿コルチコイド値21.7未満のHRを1とすると、21.7-29のHR1.33、29以上のHR1.58と、心血管イベントとも関連していた。

【結論】このように、2型糖尿病患者は、HPA系の活性化が明らかに存在しており、空腹時血糖値、コレステロール値の上昇だけでなく動脈硬化疾患の進展の、実は暗躍している可能性が示されました。なぜHPAが活性化されるのかについては、いろいろと議論があるようですが、Cushingに糖尿病が合併するのは常識ですが、糖尿病に軽いCushing病様の病態がかぶっているというのは、驚きです。(文責阿比留)